

## 北電ネットが釧路市で小規模電力網 停電時も電気を供給

2022/1/21 13:00 | 日本経済新聞 電子版



1年間かけてバイオガス発電設備（写真）などを整備する（北海道釧路市、阿寒マイクログリッド提供）

北海道電力子会社で送配電を担う北海道電力ネットワーク（札幌市）は21日、北海道釧路市でマイクログリッド（小規模電力網）を構築すると発表した。約10億円かけて再生可能エネルギーの発電設備と蓄電池を設置し、大規模な停電が起ころうとしても電気を使えるようにする。2023年3月の事業開始を目指す。

特別目的会社（SPC）の阿寒マイクログリッド（同市）を設立し、同社と北電ネット、釧路市などで事業に向けた協定を結んだ。同市の旧阿寒町にある徹別（てしべつ）地区が対象で、1年間かけて太陽光やバイオガスの発電設備（出力計375キロワット）、蓄電池（容量1087キロワット時）、電力供給の制御端末などを整備する。

マイクログリッドは電力会社の送電線とは別の配電網で構築するのが一般的だが、今回は北電ネットが所有する送電線に直接再生可能エネルギー発電を接続する。既存の送電設備を活用して費用を抑える。停電時は北電ネットの電力網から対象エリアを切り離し、発電設備から避難所や酪農施設、民家など合計40軒に電気を届ける。

通常時は発電設備を保有する酪農施設が電気を使い、余った分は国の固定価格買い取り制度（FIT）などで売却する。北電ネットは北海道南部の松前町でも同様のマイクログリッド計画を進めている。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。